

## なんと未来ミーティング<子育てコース>開催記録

開催日時■令和4年11月6日(日)午前9:30~午前11:30

開催場所■福野体育館・会議室1(臨時保育室・研修室1)

参加人員■<参加者>13名(市内在住または勤務する方で小学生までのお子さんを持つ保護者)

<メインファシリテーター>大河原晴子氏(ファニーズキッチン経営者)

<市側>田中市長、川森総合政策部長、溝口こども課長、西井商工企業立地課長

堀情報政策課長、広報係2名、なんと未来支援センター3名

<グループファシリテーター・書記>市職員5名(こども課・商工企業立地課・南砺で暮らしません課)

<臨時保育>利用者:3名(1組) 保育士1名+サポート1名

<傍聴者>文化・世界遺産課長、秘書係長

<取材> 富山新聞、となみ衛星通信テレビ(株)

テーマ■ メインテーマ:well-being ~真の豊かさとは~

Aグループ:『子育てしやすいまちづくり』

Bグループ:『若者と仕事』

Cグループ:『女性が輝く社会』

### スケジュール■

9:30 開会

9:35 市長あいさつ

南砺市の課題と取り組みについて(プレゼンテーション)

9:45 グループワーク(テーマを基に課題や意見を出し合う)

11:00 グループ発表・市長コメント(意見をまとめて市長に発表)

11:25 市長全体総評

11:30 閉会・解散

### 市長あいさつ■

第2次南砺市総合計画のまちづくりビジョンにおいて、2030年までに未来に希望が持てるまちを実現するために、将来を担う世代を育むことが大事であると説明された。

また、ジェンダーギャップの解消や多様性を認め合い、暮らしやすさを向上するために、みんなが参画して、みんなが意見を出し合い、みんなでその地域で活動や行動することが重要であると、それらのあらゆる課題に向けた市の施策や子育て支援、市内企業の取り組みなどを紹介された。



### 各グループの発表■

Aグループ『子育てしやすいまちづくり』

●子どもの公共交通利用の利便性向上

●地域での子育てサポート

子供の習い事に、なんバスの充実や保育園と習い事の連携したサービスの充実。

ベビーシッターやファミリーサポートサービスですぐに頼めるもの。また、シニア世代の方や地域づくり協議会の方にお問い合わせできないかという意見がありました。

Aグループでは最初に課題を出して、それに対して“こんな未来になったらいいな”ということを出していく中で、サービス改善も、その繋がりも子供たちがより良い経験をしてほしい、良い育ちをしてほしいという親の願いからのものでした。例えば親同士が繋がりたいというのは、やっぱり人の繋がりであったり、それがまた子供たちの経験に生かされたりする事で全てが繋がっているなという事を感じています。

それが全部実現したら、それこそ子育てしやすい環境になっていくというふうに思いました。そんな環境作りをぜひよろしくお願いします。



## 市長返答内容

自分はコドモンを使ったことがなかったので、改善の余地はあるかもしれないが、子供たちのプライバシーの問題に課題があると思います。

また、市内に遊び場がない為、市外へどんどん行くということは以前からも課題があり、遊休施設をどう使うかという議論は今後も深めていきます。あと、おじいちゃんおばあちゃんに子供を預ける事もいろいろと問題や課題があって、地域づくり協議会の中でどのような手助けが必要なのかをもう少し煮詰めていくうえで、地域の繋がりは当然大事になってくると思います。

それと一番難しいのは、塾とかいろんなところで自由に使える公共交通ってというのは、ある程度全体的な運行時間を決めたり、バス停を決めたりして非常に窮屈な課題があります。できるかぎりドア to ドアができればいいが、なかなか難しいのが現状です。

## Bグループ『若者と仕事』

- ジェンダーギャップや世代間ギャップを解消するためのチェックシートの実施
- 企業の職場環境がわかるチェックシート→見える化



Bグループでは、今後若者が南砺市で仕事をする、生活するには地域・会社・家庭の三つがうまくできないと難しいといった意見がでました。例えば、PTA、交通安全の旗振り、消防団などに負担を感じています。また企業では、子供が病気になった時や長期休暇の時など、休みづらい雰囲気があります。

改善方法として、ジェンダーギャップの解消・世代間ギャップの解消のセミナーや広報活動を市の方で開催いただきたい。また地域の見える化ということで、チェックシートを用いて、「できていますか？」というような内容があれば、その地域に住む

これからの人にも安心感が出ると思います。

職場環境についてもわかるチェックシートを、なんとジョブや求人にも活用する。新卒の方が、どのような情報を求めているのか、転職活動している人がどういった情報を求めているのかを詰めながらチェックシートを作成し、企業も採用募集の際に、応募してる人たちはこういうところを見てこういう企業が安心して働けますよというようなところを、行政の方から企業にアプローチするのがよいと思います。もう一つは、若い女性向けのセミナーとかで地域で働くことのメリットなども聞いて、チェックシートに取り入れていくのも方法だと思います。

## 市長返答内容

地域の困り事の中で、ゴミ当番とか交通安全当番を、会社を休んでまで頼むぞっていう地域がいいのかどうかってというのは、地域づくり協議会とかで問題共有して、どういうことが大事なのかということを考えてもらえるかアプローチしてみたいと思います。冒頭にも言いましたが、ジェンダーギャップの解消についても地域と家庭というのが非常に難しいですが、私の方からも言っていきますし、我々の発信できるものとしてはこれをずっと言い続けていきたいと思っています。世代間でいろいろと問題があるというのもわかるので、地域については地域づくり協議会、もしくは地域の中でいろんな団体の方とお話をしていきたいと思っています。

あと、なんとジョブに手を挙げていただいている企業は、育休も取れるし、いろんな従業員の皆さんにサービスがありますよということアピールされているので、逆にその他の企業や NPO の皆さんはいろんな働き方が今多様化している中で、どういうふうになっているかのチェックをオープンにするしないは別として、診断士の方にも相談できることをやりたいと思います。またスタートアップの事業とか、そのスタートアップした後はどうやって、サポートできる体制がつかれるかがこれからの大きな地域の課題だと思います。

## Cグループ『女性が輝く社会』

### ●女性の小さな負担の解消・親同士が対面で交流できる場の提供

### ●会社への働きかけ・行政の補助

女性が輝く社会の邪魔をしているものとして、女性の小さな負担がたくさんありすぎることと、父親の子育てをしたいという気持ちが何者かによって邪魔されているような気がするということについて、どうすればよいか話し合いました。

一つ目は、保育園側からの小さな要求や決まりが多すぎる。布団や雑巾は(保育園の指定サイズのものをお母さんが作る必要があるが、)既製品で対応してほしい。毎日炊きたてのご飯を持っていかないといけないが、保育園側で用意してほしい。

次に、父親の子育てをしたいという気持ちに対して、会社側として育休制度はあるけれども、収入が減ってしまうという気持ちがあります。そこは育休を取得した父親のいる会社に、市がお祝いや補助金を出していただけたら、お父さんも育休をとりやすいと思います。

最後に、こういった小さな困りごとを保育園・保育参観のときに親同士で話し合う機会があればいいと思います。

特に一つ目の内容のような小さなことを、市長の前で言ってもいいのかなとは思いましたが、やっぱりこういうことをなくすことで女性が輝く社会に繋がるのではないかと思いますので、思い切って今日は発言させていただきました。

また親同士の交流の中に、市の担当者が加わればヒントや政策に繋がることも見つかりそうだなと感じました。



## 市長返答内容■

女性の小さな負担というのはなんかズキツとしたね。確かにそういうことは結構あるのですよね。多分私の家庭でも、妻はずっとそう思っているかもしれないですね。

あと布団や雑巾については個人的な考えですけど、今は既製品があれば買ってきて、自分たちの時間をちゃんと作る方が、子供たちにとってもいいのではないかと僕は思います。白いご飯についても、できる限り温かいご飯を食べてもらった方がいいのではないかと思います。ただ、このような事を相談しても小・中学校の子供たちは給食法で(給食の提供の規定があり)、保育園というのは厚生労働省管轄のため、小中学校とは対応が異なるという議論だけで終わってしまうので、子供全体を扱う行政機関にちゃんとフォローするような形で、皆さんの意見を出していきたいと思います。

あと育休の話は、取れるところと取れないところがあるというのも理解します。その辺に対して公的な資金として、会社に補助金を出すのがいいのか、逆に親御さんまたは子供たちにフォローをすればいいのか、国の施策と同時に考えていかなければと思います。

また親同士のコミュニケーションやコミュニティが必要なのはわかりますし、今日問題提起したことに関し、また別の所で話し合いの場が設けられるのであれば、話し合えたらいいなと思います。例えば今日出た様々な課題を、早速なんと Hug の方へ投げかけて、いろんな意見を聞くとか、そういうことも含めて少しアクションを起こしていくべきかと思いました。

## 市長全体総評■

1人1人のご意見も含めて今回のご意見は、シェアして次の施策に向けて取り組んでいくことを皆さんにお約束させていただきます。それが全てできるかできないかは別として、できるかぎり市の事業に反映していく中で、担当者が努力していくことになります。

また、地域・行政・企業の三つのカテゴリーの中で、まだ地域社会になっていないために皆さんがどこにアプローチして行けばよいか不明確なため、そこは行政側からそれぞれの地域へ意見があったことをお伝えします。我々も当然行政として皆さんの意見を聞く場面を考えて、企業に対しても、地域に対しても、今日いただいた意見はちゃんとアプローチできるようにしていきます。

今回、ワークショップという形式で皆さんが積極的にいろんな意見を述べていたことに非常に嬉しく思いました。ワークショップは回数を重ね、最後に皆さんの意見をまとめるというプロセスが非常に重要です。今後も、それぞれの地域で誰もが自由にいろんな意見や考えを出せるという場所がワークショップだと思いますので、そういったことを今後のまちづくりの一つとして取り組んでいきます。



## 閉会・解散■